



柏市DX人材育成方針

令和7年4月
DX推進課



目次

1. 本方針の概要

- 背景と目的 1
- めざす姿 2
- 位置づけ 3
- 対象期間 4

2. DX人材像

- DX人材の区分・役割 5
- スキルマップ 6

3. 育成手法

- 研修内容 7
- 育成体系 8
- 効果発現 9

4. 今後の検討事項

- 今後の検討事項 10

(補足) 用語解説集 11

背景

- ・ 柏市の将来人口推計によれば、2035年をピークに人口が減少に転じることが予測されており、自治体職員数も減少する見込みです。
- ・ このような状況においても「市民の皆様の生活を支えていく」という使命は変わりません。市民の皆様に「柏市に住んでよかった、これからも住み続けたい」と感じていただくためには、デジタル技術を活用することで現状をより良い方向へ変えていくこと、すなわち【DXの推進】が不可欠です。
- ・ 令和4年度には「柏市DX推進ガイドライン」を策定し、本市が描く将来像とDXの進め方を市民の皆様にわかりやすく示しました。

目的

- ・ そこで、本市のDX推進のために必要な人材を育成するため、目指す人材像や育成手法を体系的に定め、職員が【DX人材】として活躍する姿を見据え、「柏市DX人材育成方針」を策定しました。

Before



職員間でのデジタル
リテラシーのばらつき

多くの業務でアナログ
的な方法が残っている



市民の期待やニーズ
が多様化している

DX

After



職員全体のDX
マインドセットの浸透
改善・改革へのチャレンジ

DXスペシャリスト人材
を中心として組織全体で
解決できる体制づくり



DX推進により目指す柏市の将来像
「つながる市役所」「業務改革・効率化・価値創造」
を実現

2018年
経済産業省「DXレポート」

2025年の崖

全国のIT人材不足の拡大
約43万人

IT予算に占めるシステムの
維持管理費の割合
9割以上



2020～2023年
WHO(世界保健機構)



新型コロナウイルス
による緊急事態

デジタル格差
の拡大



【基本的な目標】

- (1) 創造的なまちへ
- (2) 居心地のよいまちへ
- (3) 地域の個性が輝くまちへ

【重点テーマ】

- 1 全世代に向けた学び・健康・社会参加
- 2 エリアごとの特徴を生かした地域経済・産業の振興
- 3 未来に備える防災・減災と気候変動対策

【求められる職員像】

『革新力』 『協働力』 『業務処理力』
『全体の奉仕者意識』 を備えた職員

【スペシャリスト育成制度】

DX人材コース

上位計画のDX人材
に関する部分を明確化

国の施策・動向

随時反映

柏市第六次総合計画

柏に関わる一人ひとりが想いを実現できるまち
～多様な価値や人々がつながり、新たな価値の創造に挑戦～

柏市人材育成・ 確保基本方針

柏市が抱える行政や地域の課題を解決するために必要な人材を育成・確保するための方針

柏市DX推進 ガイドライン

デジタル社会における本市の目指すべき未来像と、DXの進め方を示したガイドライン

柏市DX人材 育成方針

DXを推進するために必要な
人材育成に関して具体化

■ つながる市役所

市民や企業・団体が時間や場所を問わずつながり、困ったときに頼ることができて安心感のある暮らしを提供する市役所

■ 業務改善・効率化・ 価値創造

業務の効率化や簡素化を徹底し、人的資源を行政サービスに振り分け、新たな価値を市民に還元する市役所

- ・本市のDX人材育成は、デジタル技術の急速な発展とともに時々刻々と変化する課題であるため、一定の対象期間を定めることなく、長期的かつ柔軟に対応していく必要があります。
- ・本方針は、国や県の方針等に加え、本市のDX推進状況や人材育成の進捗を踏まえながら随時見直しを行い、最適なDX人材育成を継続的に推進していきます。

柏市人材育成基本方針

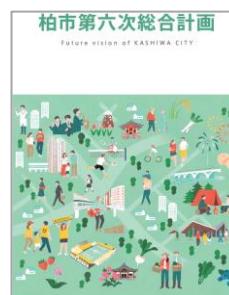
本市の人材育成施策上の現状と課題について明らかにし、今後の人材育成施策の方向性を示す方針を策定

H16

柏市第五次総合計画

中長期的に継続可能なまちづくりに取り組めるよう、また社会経済情勢や時代の変化に伴う新たな課題等に柔軟かつ臨機応変に対応するための総合計画を策定

H28



柏市第六次総合計画

「柏市第五次総合計画」の対象期間終了に伴い、R7～R16までの10年間を新たな期間とし、市政を総合的かつ計画的に進めるための総合計画を策定

R4

柏市人材育成・確保基本方針

人材育成・確保に関する施策等を一体的に推進し、自らの業務や地域の発展に必要な専門知識、スキルを持った人材を育成・確保する方針を策定

R7

柏市DX推進ガイドライン
2022 ▶ 2025

柏市企画部DX推進課
2022.4

柏市DX推進ガイドライン

デジタル社会における本市の目指すべき将来像と、DXの進め方を市民に分かりやすく示す

柏市DX人材育成方針



目次

1. 本方針の概要

- 背景と目的 1
- めざす姿 2
- 位置づけ 3
- 対象期間 4

2. DX人材像

- DX人材の区分・役割 5
- スキルマップ 6

3. 育成手法

- 研修内容 7
- 育成体系 8
- 効果発現 9

4. 今後の検討事項

- 今後の検討事項 10

(補足) 用語解説集 11

DX人材の区分・役割



区分

役割

庁内公募により選定された
「DXスペシャリスト」として
DX推進課に所属する職員

DXを推進する職員
(通常の異動でDX推進課に配属
された職員等)

「DXスペシャリスト人材」
「DX推進人材」以外の職員

高度なスキルを駆使して
柏市のDXをけん引する



DXスペシャリスト
人材



DX推進人材

デジタルを活用して
組織全体のDXスキルを向上する

全職員



デジタルを活用して
業務改革にチャレンジする

高度なDXスキルと最先端の技術や手法を駆使し、内外部の人材や組織と協働しながら柏市全体を対象とし最適な解決策を提案・実行することで、柏市のDX推進の中心的な役割を担う

デジタル標準スキルを有し、デジタル技術を活用することで、柏市全体のDXを推進するとともに、全職員に向けた育成手法を提案・提供する

基本的な情報セキュリティの知識を有し、デジタル技術を活用することで、日々の業務において改善・改革を積極的にチャレンジする

スキルマップ



スキル 内容 人材別	DXリテラシー デジタル技術の基本的な理解を深め、それを業務にどのように活用するかを把握し、DX(デジタルトランスフォーメーション)が組織に与える影響を理解する	情報セキュリティ 本市の情報資産データやシステムを保護するために必要な知識と技術を理解する	BPR・業務改善 業務フローの最適化や効率化を図るために、業務の無駄を排除し、デジタル技術を活用した業務プロセスの再構築等を理解する	データ利活用 収集したデータを分析し、戦略的な意思決定に必要なデータを活用する方法を理解する	デジタルツール 業務を効率化するために活用する各種ソフトウェアやアプリケーションの活用方法を理解する
DXスペシャリスト人材	DXの理想的な姿を理解し、高度なDXスキルと最先端のデジタル技術を駆使して本市のDXをけん引する	本市の安定的なシステム運用を確保するため、業務システムや各種インフラの調達・管理等を円滑に行う	組織全体を対象とした業務フローの最適化・効率化を実現するため、改革のマネジメントや支援を行う	データを戦略的に活用し、組織の意思決定においてデータ駆動型のアプローチをリードする	最先端のデジタルツール情報に精通しており、専門的なデジタルツールを効果的に利活用し、展開・運用する
DX推進人材	DXの基本概念を理解し、標準的なDXスキルを駆使して本市のDXを推進する	日々の業務システム運用を行い、組織運営に関連する情報セキュリティ対策を行う	業務フローの課題を見つけ、見直しを行い、業務の効率化を図る	データの収集・分析・クレンジングを行い、データに基づく意思決定を行う	専門的なデジタルツールを効果的に利活用し、展開・運用する
全職員	情報セキュリティをはじめとする基本的なデジタル知識を理解し、業務においてデジタル技術を正しく使う	本市のセキュリティポリシーを遵守し、日々の業務において意識して行動する	業務改革の重要性を理解し、日々の業務において改善・改革を積極的にチャレンジする	基本的なデータの活用方法を理解し、公開されている情報データを業務に活かす	基本的なデジタルツールの使用方法を理解し、正しく使う



目次

1. 本方針の概要

- 背景と目的 1
- めざす姿 2
- 位置づけ 3
- 対象期間 4

2. DX人材像

- DX人材の区分・役割 5
- スキルマップ 6

3. 育成手法

- 研修内容 7
- 育成体系 8
- 効果発現 9

4. 今後の検討事項

- 今後の検討事項 10

(補足) 用語解説集 11

(R6実績)

【全職員】の研修に加え，次の事項を実施

▼DX人材育成研修（外部委託）

- DX概論・マインド醸成
- BPR・業務改善
- ネットワーク・セキュリティ対策

▼人材類型『ビジネスアーキテクト』※を中心とした育成

※「デジタルスキル標準ver1.2」（2024年7月 経済産業省）で定義

変革（＝目的）を設定したうえで関係者をコーディネートし
協働関係の構築をリードして，目的実現に向けたプロセスの
一環した推進を行う人材

DXスペ
シャリスト
人材

DX推進人材

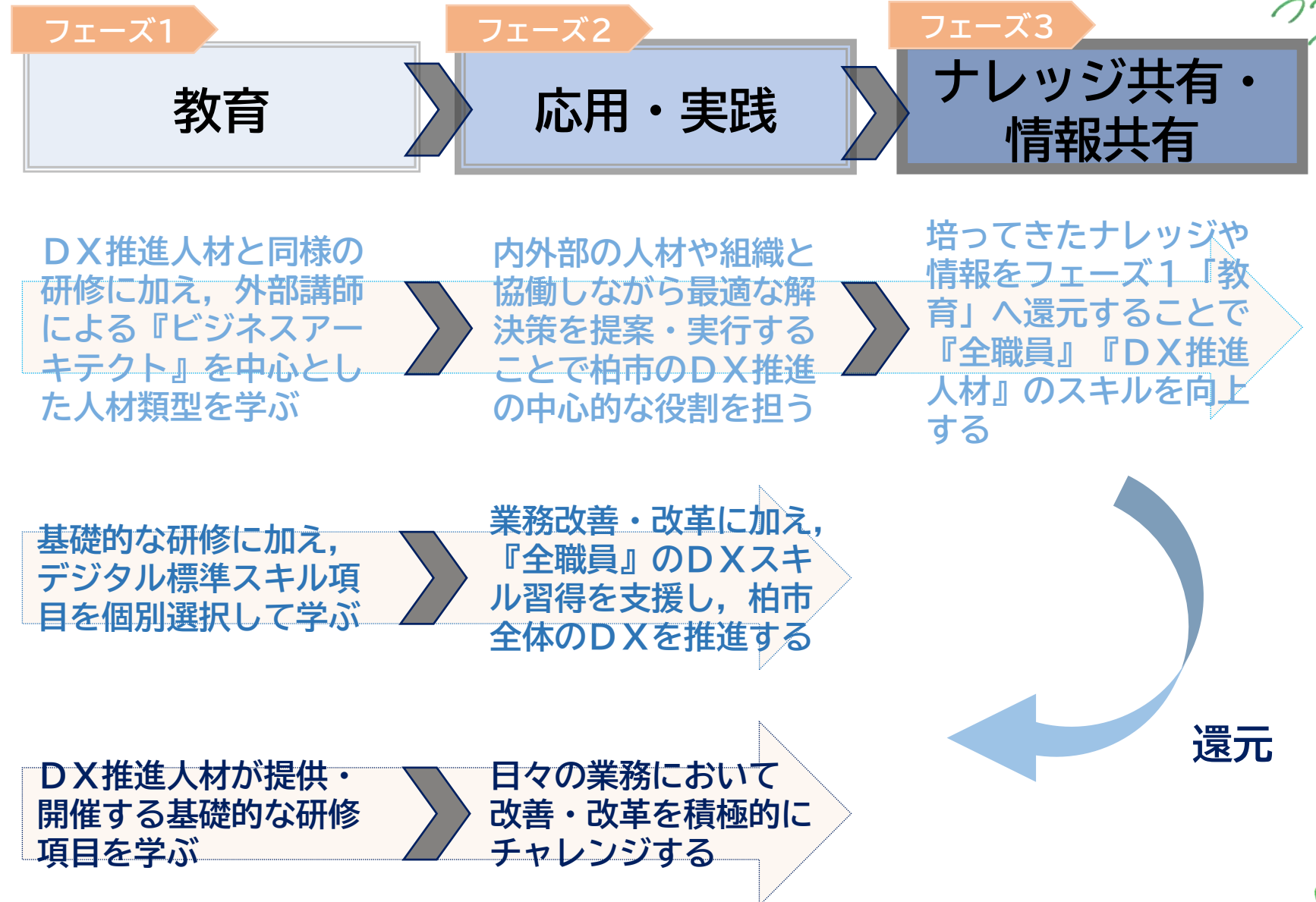
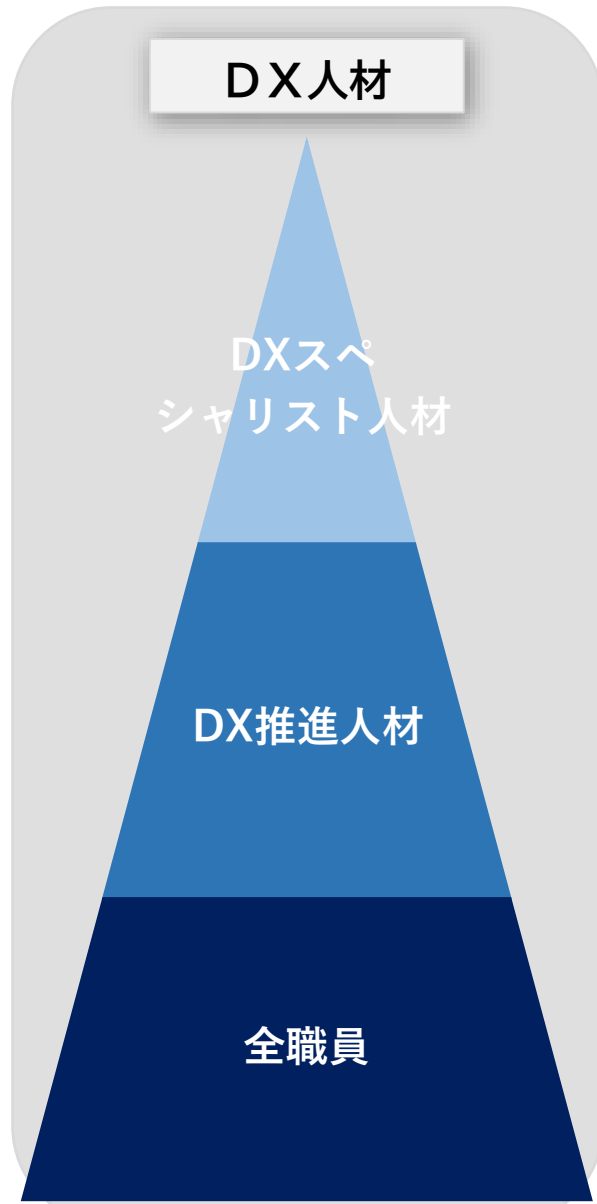
- J-LIS動画研修／ライブ研修
（プロジェクト管理，情報化研修企画，情報セキュリティマネジメント，
講師育成，BPR，データ利活用，ステークホルダーマネジメント 等）
- セキュリティe-ラーニング（J-LIS）
- 実践的サイバー防御演習（CYDER）研修

全職員

- 新規採用職員研修
（庁内情報ネットワーク，情報セキュリティ）
- セキュリティe-ラーニング（J-LIS）
- 情報セキュリティ研修

【全人材共通】

- 生成AI庁内活用推進研修
- オンライン申請ツール
合同研修会



フェーズ1

教育

フェーズ2

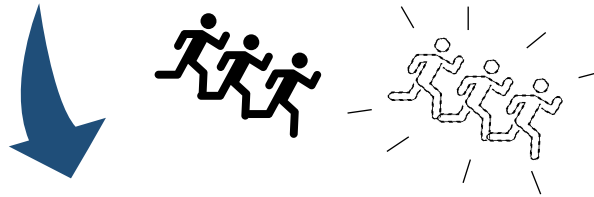
応用・実践

フェーズ3

ナレッジ共有・
情報共有

既存事業の効率化・高度化 によって

人材リソースを創出



E B P Mやイノベーション によって

行政サービス向上に
資する施策の検討・導入



暗黙知

DXスペシャリスト
人材の知識資産・経験

共有



蓄積

形式知

DXスペシャリスト人材
が研修やマニュアルに
よって内製化



目 次

1. 本方針の概要

- 背景と目的 1
- めざす姿 2
- 位置づけ 3
- 対象期間 4

2. DX人材像

- DX人材の区分・役割 5
- スキルマップ 6

3. 育成手法

- 研修内容 7
- 育成体系 8
- 効果発現 9

4. 今後の検討事項

- 今後の検討事項 10

(補足) 用語解説集 11

今後の検討事項



本方針に基づき、DX人材育成をより効果的に推進するために以下の事項について、今後さらに検討を図っていきます。
これらの検討事項は、具体的なDX推進の実行に向けて持続的な効果を発現するための指針になります。

DXスペシャリスト人材が主導すべき業務

DXスペシャリスト人材が解決策を提案する場として、優先的に実施すべき部署や業務を特定し、ターゲットを明確化することで、人材リソースを集中的に投入できる。

高度専門人材の導入

DXアドバイザー、サービスデザイナー、ITコンサルタント、エンジニア等の高度な専門スキルを有する外部人材を活用し、本市のDX人材と連携しながら、適切なサポートを受けることにより、DX推進体制を一層強化できる。

パートナーシップの形成

県や近隣市町と連携・協働によりDX人材の育成を行うことで、本市単独では限界がある課題に対し、知見やノウハウを共有することで新たなアイデアやソリューションを生み出して解決することができる。

予算の確保

DX人材への投資に伴う長期的な成果や効果を示すことで、適正な予算を確保でき、本方針を計画的かつ確実に実行していくことができる。



目次

1. 本方針の概要

- 背景と目的 1
- めざす姿 2
- 位置づけ 3
- 対象期間 4

2. DX人材像

- DX人材の区分・役割 5
- スキルマップ 6

3. 育成手法

- 研修内容 7
- 育成体系 8
- 効果発現 9

4. 今後の検討事項

- 今後の検討事項 10

(補足) 用語解説集 11

(補足) 用語解説集



用語	説明
DX	Digital Transformation(デジタルトランスフォーメーション)の略称であり、組織がデジタル技術を活用して、業務プロセスを根本的に改革すること。
デジタルリテラシー	デジタル技術を理解し、適切に活用するために必要な知識や能力のこと。単にデジタル機器を操作するスキルにとどまらず、情報を検索・評価・作成することやコミュニケーションの側面も含む。
デジタル技術	情報をデジタル形式で処理・保存・伝送するための技術のことであり、日常生活や業務において、効率性や生産性を向上させるために不可欠な役割を果たしている。
情報セキュリティ	情報資産の機密性(許可された者のみが情報へアクセスできる)、完全性(情報が破壊や改ざんされない)、可用性(必要なときに情報へアクセスできる)を確保するための取組みであり、情報漏えいやデータの損失を防ぐために重要となる。
BPR	Business Process Re-engineering(ビジネスプロセス・リエンジニアリング)の略称であり、組織の業務プロセスを根本的に見直すこと。
デジタルツール	デジタル技術を活用したツールのことであり、業務効率化をはじめとしたDXの推進において重要な役割を果たす。
人材類型	経済産業省が策定した『デジタルスキル標準』は、ビジネスパーソン全体がDXに関する基礎的な知識やスキル・マインドを身につけるための指針である「DXリテラシー標準」、及び企業がDXを推進する専門性を持った人材を育成・採用するための指針である「DX推進スキル標準」の2種類で構成されており、このデジタルスキル標準において、「ビジネスアーキテクト」「データサイエンティスト」「サイバーセキュリティ」「ソフトウェアエンジニア」「デザイナー」の5つの人材類型が定義されている。
ナレッジ共有	組織内で蓄積された知識や情報を職員同士が効率的に共有し、活用するプロセスのこと。